

2017年度都道府県連絡会 ユース育成方針について

2017/5

公益財団法人日本バスケットボール協会



本日の提案内容



ユース世代（18歳以下）に対して

現実の課題



理想の未来



解決策提案

男子

FIBAランキング向上

アメリカ1位、アルゼンチン6位、日本48位

Bリーグ開幕→定着・発展させる必要性

女子

現状の結果をさらに向上させる

現戦力引退後の次世代育成

1. 世界基準のバスケットボール構築

2. 国内で活気のあるバスケットボール文化

世界基準のバスケットボール構築

強化

世界基準を日常に取り入れる
世界を目指す環境
世界を視野に入れた指導を日常から行う



国内で活気あるバスケットボール文化

普及

バスケットボール愛好者を増やす
バスケットボールを楽しめる！上手になる！
日本代表が強い！応援する！



1. バスケット界の我々が取り組むべき

2. この変革は二度とできない

3. 日本の中で争っている場合ではない

私たちは
日本のバスケット仲間である

LTAD (Long-Term-Athlete-Development) 理論

LTAD : 長期選手育成理論

成熟度に合わせて指導が必要

■スポーツ競技 6段階

① **FUN**damental

楽しさと動きの獲得

② **Learn** to Train

トレーニングを学ぶ

③ Train to **Train**

身体トレーニングの基礎

④ Train to **Competition**

競技力強化

⑤ Train to **Win**

勝利を目指すトレーニング (プロフェッショナル)

⑥ Retire

引退

■身体成長 4段階

① 身長が伸びる前

② 身長が伸びている時

③ 身長が止まった時

④ 完成期

PHV (Peak Height Velocity)の理解
身長最大伸張時期

課題

- ・ 若い世代へのコントロールのない指導と過剰な競争
- ・ 競争が多くて練習が少ない
- ・ 大人の競技スケジュールと子供のスケジュールが同じ
- ・ 大人のトレーニングと子供のトレーニングが同じ
- ・ トレーニングの焦点が過程よりも結果に絞られている
- ・ レベル高いコーチがエリートレベルをコーチしているが、ジュニアレベルのコーチは専門性の低い人が担当せざるを得ない現状
- ・ コーチ教育で成長・成熟に関する部分をレクチャーされることが少ない
- ・ 保護者教育でLTADが語られていない
- ・ スポーツ科学の知見が利用されていないことが多い

一貫指導の考え方

一貫指導

系統的・段階的指導内容

成熟段階に応じた指導内容

習熟段階を考慮した指導内容

育成指導理念

トライさせて経験させる=失敗を認めるコーチング

「やるべきことをやりながら」「勝利を目指す姿勢」

成熟に応じた指導

全力を尽くす姿勢

発掘・育成の道筋

いつどこでどのようにスポーツに出会い
誰にどこで育成され
いつどのような大会を経験するのか

これまで

これから

学校や地域でスポーツと出会い
本人の才能と指導者が巡り会い
競技会で選考され
国際大会へ

スポーツ適性を前提に
科学的手法で才能を識別
短期間の育成期間を経て
国際大会へ

発掘＝ブロック・トップエンデバー
育成＝県内育成
ジュニアユースアカデミー
伝達＝伝達講習会→ブロックエンデバー
大会＝各連盟により検討された設定

発掘＝育成センター（新設）
育成＝育成センター（新設）
ジュニアユースアカデミー
伝達＝伝達講習会→県伝達
大会＝育成指針に沿った設定

競技者育成プログラム

競技者育成プログラム (JOC)

コンセプト

育成理念

識別方法

選考基準

プログラム

育成センター

カリキュラム

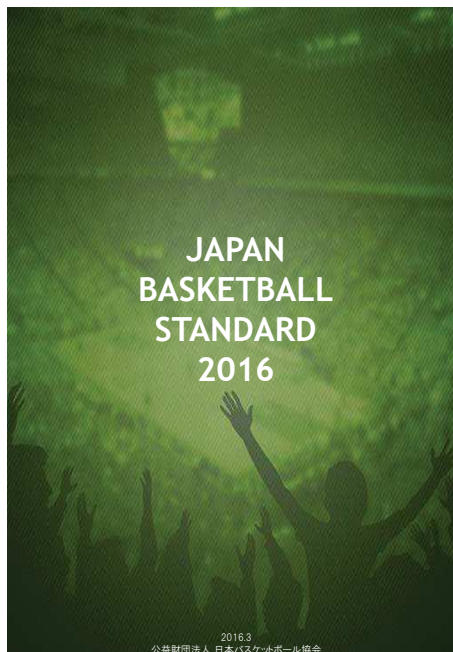
指導内容

情報伝達

伝達講習
育成センター

指導者養成

ライセンス
コーチクリニック
カンファレンス



ミッション

1. 日本代表強化

世界で勝ち抜くためのJapan'sWayの確立

国外強化システムの構築・実践

3×3日本代表強化システムの確立

2. 育成環境の整備充実

年代別指導方針の確立・徹底

タレント発掘/育成システムの構築

エリート選手養成制度の確立

3. 競技環境/競技会の整備充実

日本代表の戦略的マッチメイクの企画/立案

ユース日本代表の国際試合経験値の蓄積

アジア/オセアニア圏における国際試合増

解決策提案

育成こそが未来の日本代表の礎

【課題】

- 日本の指導方針が見えない
- 育成が不十分
 - トーナメント文化で試合数少
 - 成長が大きくない
 - 能力別に発揮する場が不足
 - Bリーグユース（男子）の設置
 - 大会が育成方針に合っていない
- 発掘の道筋が分かりにくい
- 育成世代での勝利至上主義
 - 成長に適した指導ではない
 - 指導者教育が不十分



【解決策】

- 指導内容の明確化と周知**
 - ジャパンスウェイの反映
 - 習熟度別指導方針作成
 - 周知方法論（HP・講習会）
- 育成センターの創設**
 - 個の育成、飛び級
 - 発掘システムとしての充実
 - JBA方針伝達、指導者教育
- リーグ戦文化の構築**
- 大会の環境整備**
 - 育成方針を反映した大会

提案実施上の効果

都道府県→日本が活性化する

育成に多くの大人が関わる

中1・高1問題解決策

飛び級制度

指導者研修機会増加

登録者試合数増加

etc.

ジャパンスウェイ

指導内容

成長に最適な指導

世界基準に到達する方法論

能力・習熟度別カリキュラム

指導者が手に取れる**周知方法論**

社会貢献できる人材育成

人を育てる

世界基準を
日常に！

育成センター

エンデバーを改編

質の高い競争（育成）

2年カテゴリー分け U12/U14/U16

情報伝達（指導者教育）

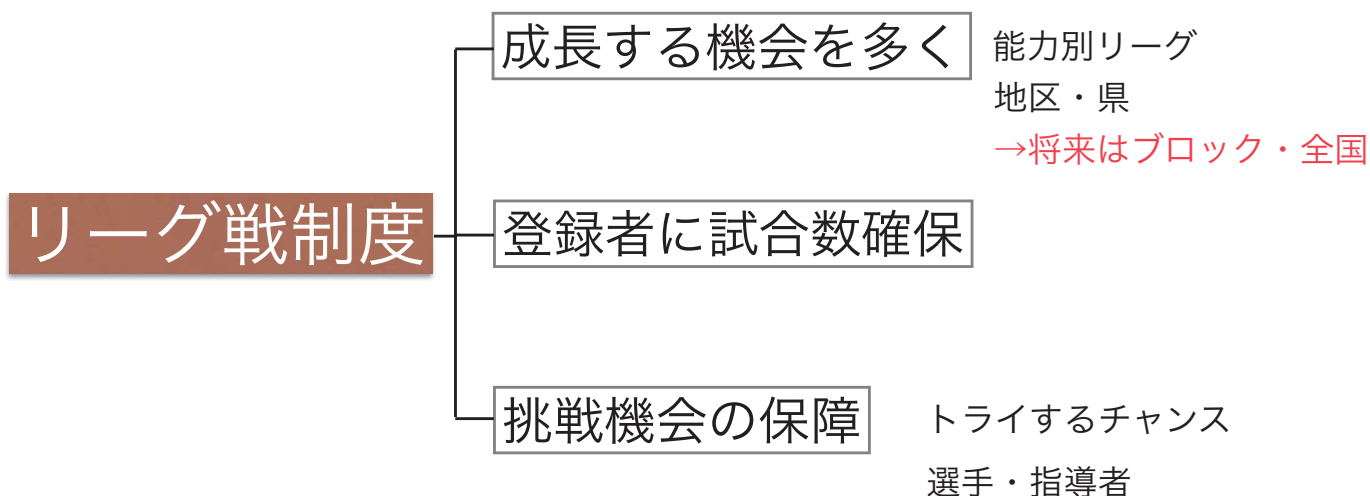
ジャパンスウェイ 育成世代コーチング

能力に応じた競争（発掘）

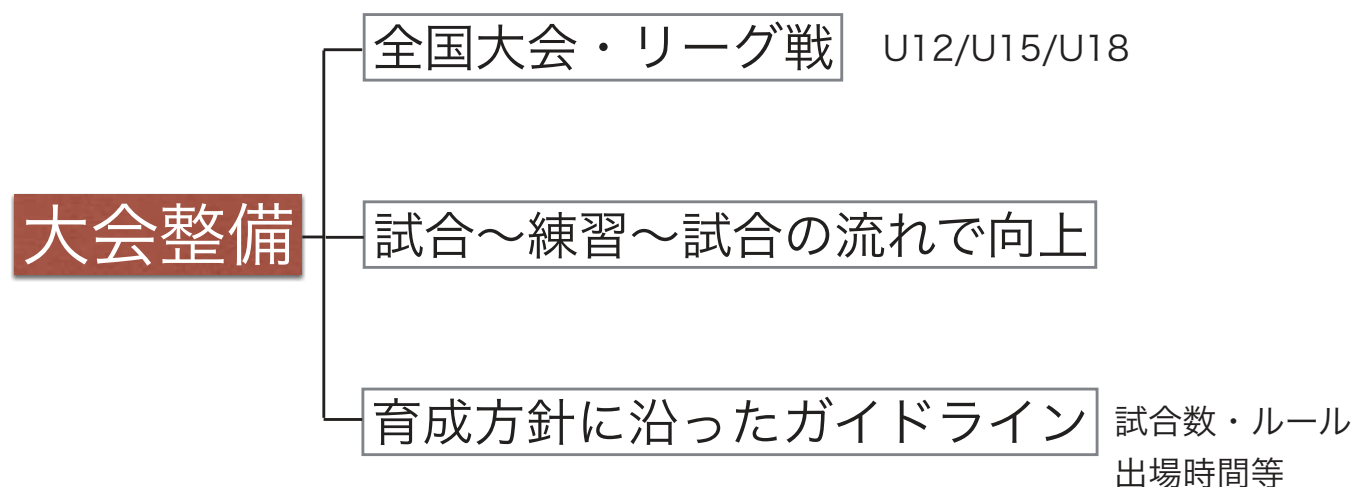
天井効果排除

県→ブロック→ナショナルへ繋がる発掘の道筋
(アスリートパスウェイ)

トーナメント文化の改革

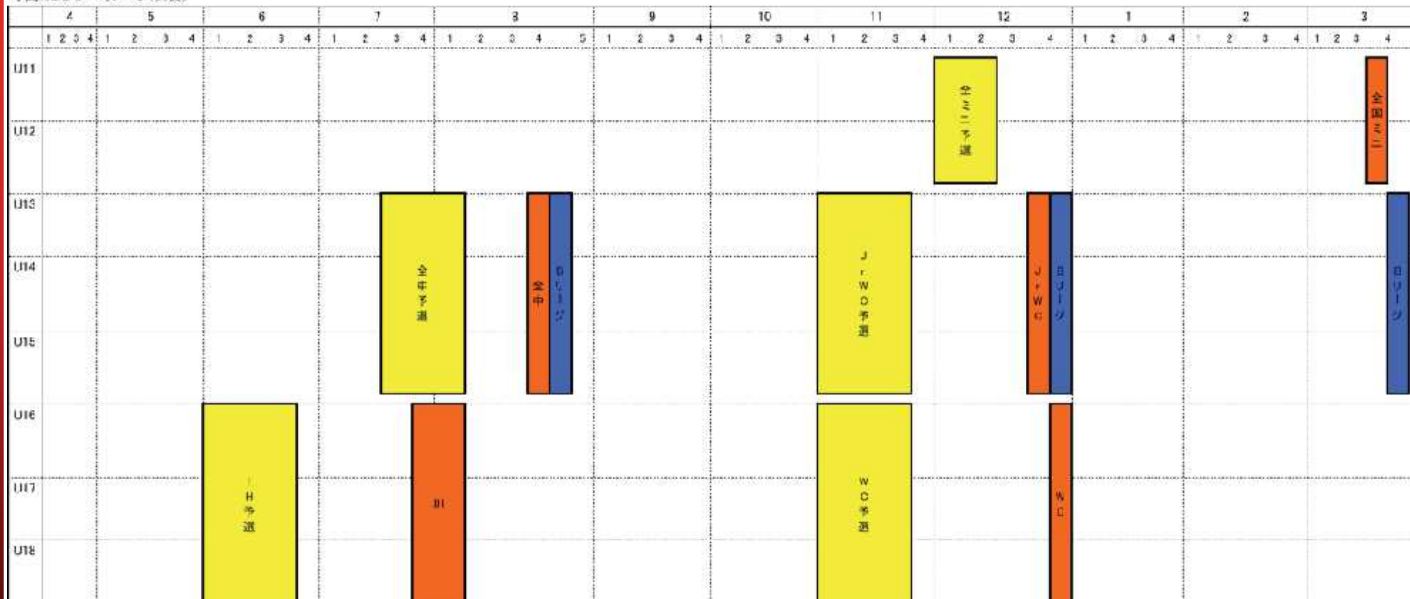


育成方針の反映



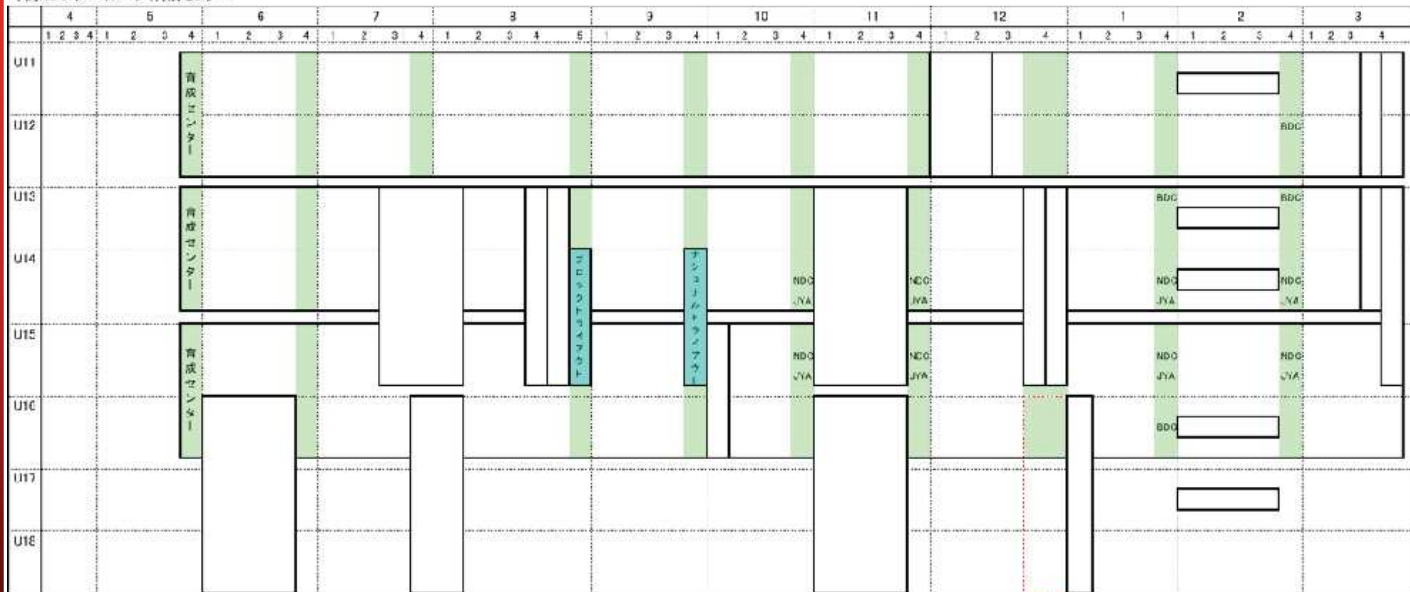
解決策提案 = スケジュール調整 (大会)

年間カレンダーイメージ(大会)



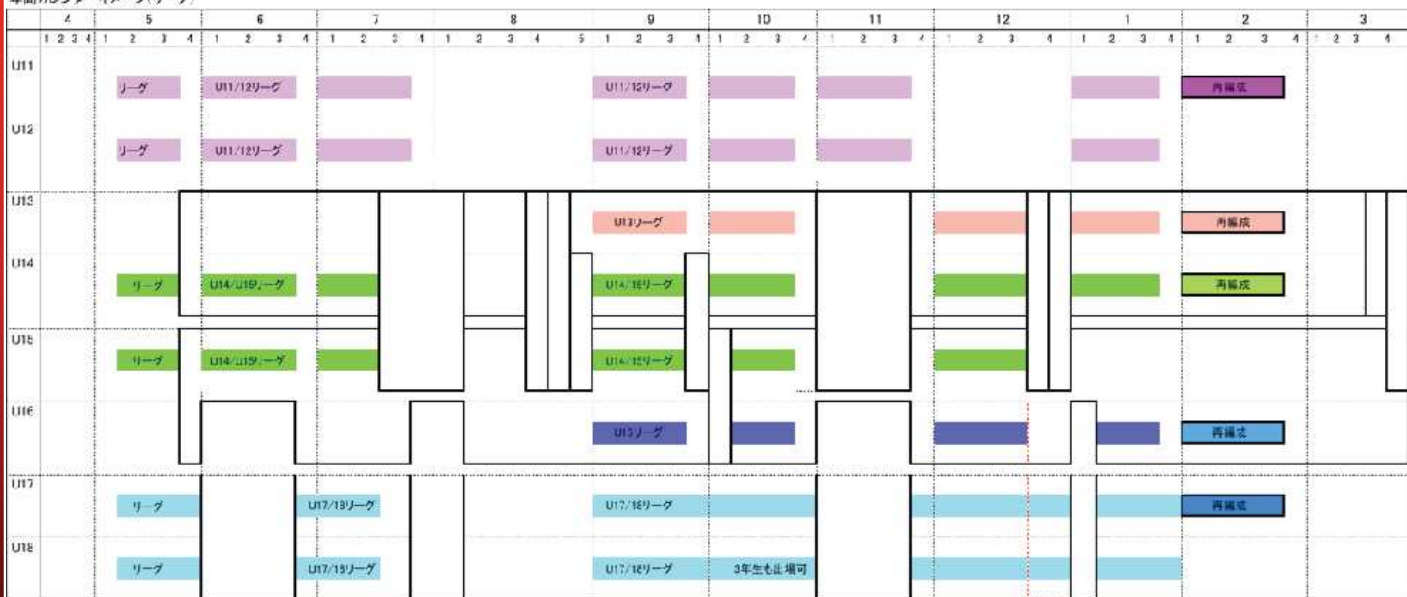
解決策提案 = スケジュール調整 (育成センター)

年間カレンダーイメージ(育成センター)



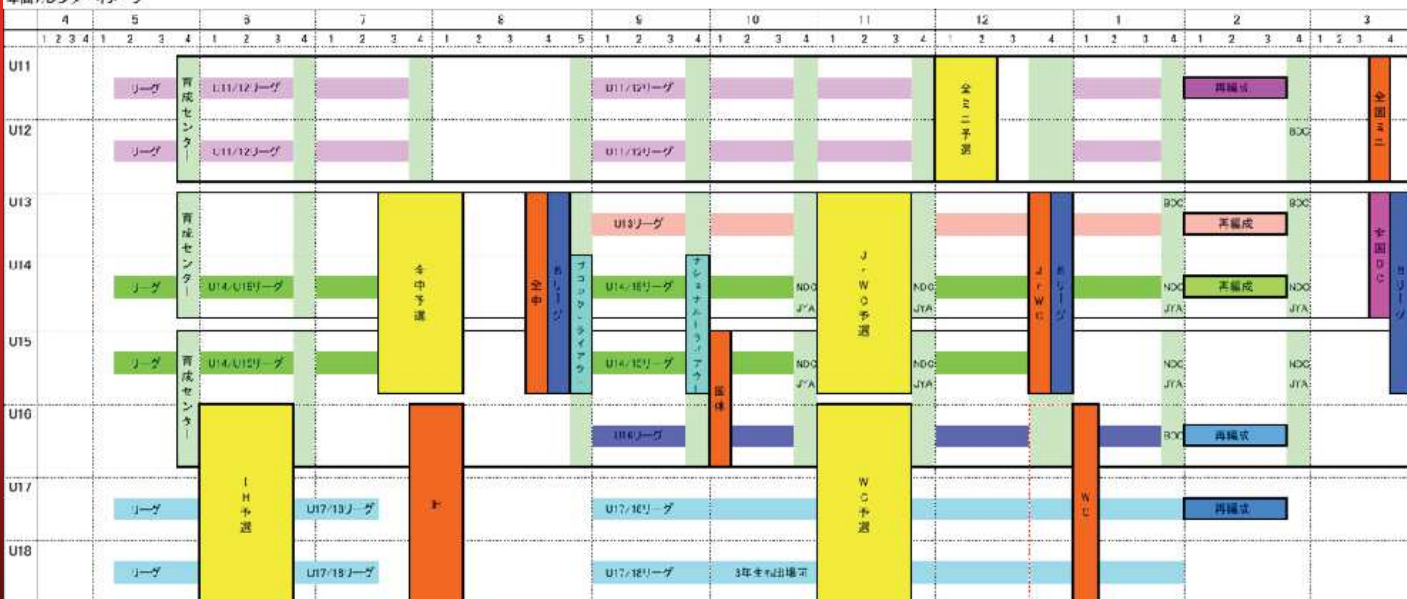
解決策提案 = スケジュール調整 (リーグ戦)

年間カレンダーイメージ(リーグ)



解決策提案 = 方法

年間カレンダーイメージ



- 人材（ヒト）
- 会場（モノ）
- 財務（カネ）
- 時間（スケジュール）
- 情報（コミュニケーション）

都道府県によるコントロールが必要

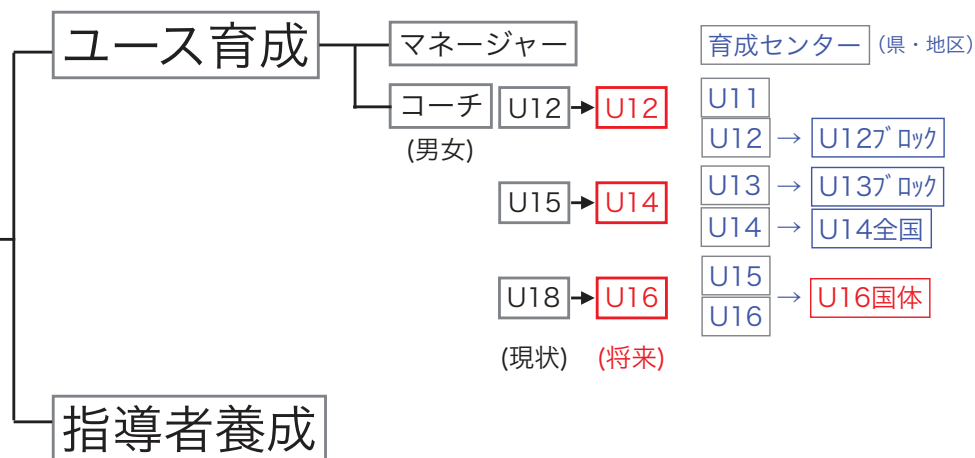
都道府県整備＝①人材（組織）

JBA技術委員会に相当

育成センター運営に関わる

指導者教育・育成方針伝達

都道府県内組織



現状のユース育成カテゴリーは育成センター区分（2年おき）に合わせる

U16国体は育成センターの延長と捉える

育成センター活動・リーグ戦実施のために

会場確保

公共体育館の利用

各チーム保有体育館の利用（学校等）
（大学との連携等）

適切な配分コントロール

育成センター活動・リーグ戦実施のために

育成事業
運営費用

受益者負担

参加費徴収

D-ファンド活用

育成センター事業
リーグ戦事業

スポンサー開拓

事業の収益化

育成事業実施のために

- 代表を皆で支えよう
アジア選手権は時期が変動すること
確定が直前となることが多い
- 育成事業を推進する

PBAが事業管理

都道府県事業
スケジュール

考え方

上位スケジュールを入れる

県に必要なスケジュールを入れる

JBA主催全国大会

代表活動

大学・社会人

Bリーグユース大会

育成センター(ナショナル・ブロック)

U18(高体連)・U15(中体連)

育成センター(地区・県)

U12 (ミニ)

指導者・レフリー講習会

指導内容伝達のために

情報管理

JBAとの連携

県内事業担当者との連携

県～地区で組織整備を行い
連絡経路を確立する

大変な改革ですが
日本のために
やらなければならない改革ならば
我々の世代で成し遂げましょう！

都道府県内での推進に
ご理解とご協力をお願い致します